

豊橋市議会の傍聴記

地方政治
クリエイト

伊藤 秀昭

東三河5市を中心
に議会傍聴も6年
目。やはり豊橋市議
会には、東三河のリ
ーダー市の風格と中
身を期待したい。何
ととっても38万都市
なのだから…。

■転出超過

豊田一雄氏(自
民)は、昨年の総務
省人口移動報告によ
り、豊橋市の転出超
過数が前年より26
7人増え942人と
なり、全国で18番目
に多いという結果と
なり、人口ピジョン
で想定する社会動態
とは大きく異なる状
態が生じていると問
題提起した。

企画部長も09年に
転出超過となり以降

その傾向が続いてい
るとして、看過でき
ない状況との認識を
示し、若い世代が安
心して子どもを産み
育てることができ
る環境と、彼らを地域
で見守り支えていく
仕組みづくりが重要
とした。

豊田氏は「社会動
態改善に向けた早急
な対応を考える必要
がある」と警鐘を鳴
らした。

三期目の佐原市政
の真価が問われてい
る。

■地域創生

星野隆輝氏(ま
ちフォーラム)も、
「豊橋市人口ピジョ
ン」では2060年
に33万人の人口を展

望しているが、市の
郊外部の町内、校区
の現状から、存続に
対する危機感を持た
ざるを得ないと問題
提起し、地域の自主
性を備えた持続可能
な「地域創生」の必
要性を訴えた。

市民協創部長も、
主体的にまちを見つ
め直し、地域で協力し
て活動を展開してい
く場づくり・体制づ
くりが課題とした。

星野氏は「地域を
存続させるための地
域特色を打ち出し、
地域が自主的に取り
組むことができれば
地域力の強化にな
り、それらが積み重
なり持続可能な豊橋
創生ができるのでな
いか」と持論を展開

8年続く転出超過に警鐘！

した。
町自治会長として
も傍聴に値する議論
だった。

■女性視点の防災 対策

川原元則氏(無所
属)は、女性視点か
ら見た防災対策につ
いて取り上げた。
川原氏は、毎月11
日の豊橋駅東口での
募金活動を含め、36
伊藤氏は、刈谷の
ついて強調した。

人の議員の中で誰よ
りも被災地復興支援
に足を運んでいるの
だから、被災地での
女性視点の取り組み
の必要性をもっとリ
アルに問題提起すべ
きではないのか。

学校現場の相談体
制もスポーツのまち
づくりについても、
貴重な人生体験が反

橋公園を訪れた時
「トイレの汚さにな
っかりした」という
話を聞き、トイレ革
命を訴えてきたこと
を思い出した。

■働き方改革

働き方改革につい
て取り上げた尾崎雅
輝氏(自民)は、特に
「男性職員の育児休業
制度の活用率向上」に
ついて強調した。

■新陸上競技場

リニューアルされ
る陸上競技場につい
て、アスリートを育
てる環境づくりを取
り上げたのは近藤修
司氏(自民)。市民協
創部長は「同競技場
をアスリートを育て
るためのモデル施設
として位置付ける」
とした。

■2学期制10年

鈴木博氏(公明)は
小中学校の2学期制
が導入されて10年が
経過することから、
その検証と今後につ
いて質問した。

ハイウェイオアシス
の快適なトイレや教
育現場の「便育」な
どから、暮らしの質
を高めるトイレのス
トックマネジメント
を強調したが納得で
きる議論だった。

もう25年も前だろ
うか姫路JCの皆さ
んが「530のまち
—豊橋」の視察で豊

総務部長は、「すく
すく育児シート」や
「育メン家事タン通
信」、「育児の日」を
活用し、育休制度を
利用しやすい環境作
りに取り組んでいる
と答えた。

尾崎氏は、この2
年間の子育て職員の
時間外勤務の実績は
「年200時間」を超

私事ではあるが、
中学2年だった娘が
89年10月、国立競技
場でのジュニアオリ
ンピックで100歳
3位、200歳で2
位となり、将来を期
待されたが、けがに
泣き苦しみ続けた。
そんな姿を目の当た
りにしてきただけ
待したい。

子どもにとってよ
り良い学期制のあり
方はどうあるべき
か、今後の検討に期
待したい。